

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス一歩		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども理解に基づいた支援計画と柔軟なプログラム運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童発達支援管理責任者を含む複数職員での面談・計画作成</li> <li>療育機関の評価を踏まえたアセスメントの実施</li> <li>個別活動と小集団活動を子どもの特性・年齢に応じて組み合わせた支援</li> <li>活動プログラムが固定化しないよう、月ごとに新しい集団遊びを導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準化されたアセスメントツールの活用方法について、職員研修を通じて理解を深める</li> <li>支援計画と日々の活動記録をより紐づけ、振り返りの質を高める</li> </ul>
2	職員間の連携とチーム支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援前後の打合せを必ず実施し、役割分担や支援の振り返りを共有</li> <li>活動日誌、個別記録を複数職員で記入・確認</li> <li>月1回の全体ミーティングや外部研修への積極的参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミーティング欠席者への情報共有方法（議事録・共有ツール等）の工夫</li> <li>事例検討やアセスメントに特化した内部研修の継続実施</li> </ul>
3	保護者との信頼関係と丁寧な情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡帳・送迎時・メール等を活用し、その日の様子を即時共有</li> <li>年2回以上の定期面談と随時の相談対応</li> <li>月1回のお便り発行やホームページでの情報発信</li> <li>保護者会・親子参加型イベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の様子（平日の自由遊び・学習場面など）をより具体的に発信</li> <li>保護者同士の交流や学びにつながる機会（保護者会）の検討</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設環境・バリアフリー面での制約	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦長のフロア構造により、人数が多いと狭さを感じやすい</li> <li>現時点ではバリアフリー化が十分ではない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外活動や近隣施設の活用を引き続き工夫</li> <li>利用児童の状況に応じた段階的な環境整備・改修の検討</li> </ul>
2	ガイドライン理解・外部評価の活用が十分でない点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドラインの読み込みが職員全体に十分浸透していない</li> <li>外部評価は必要性を感じつつも、具体的な導入に至っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドラインをテーマにした勉強会や研修会の実施</li> <li>外部評価について、目的や方法を整理し段階的に検討</li> </ul>
3	地域連携・インクルーシブな交流の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流は自然発生的なものが中心で、計画的な実施が少ない</li> <li>協議会等への参加が限定的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事や近隣施設との交流機会を検討</li> <li>協議会や連絡会への継続的参加を通じた情報収集・連携強化</li> </ul>